

市政に関する 一般質問

平成21年第4回定例会の一般質問には、23人の議員が登壇し、市政各般にわたり議論が展開された。

各議員が行った質問のうち、1問についての質疑・答弁を通告順に記載していきます。

都市計画道路3・4・10号線の整備計画について

改革21市民クラブ 横須賀 靖

問 向小金及び前ヶ崎の一部地域への交通路は、名都借跨線橋か、サンエス自動車前の信号しかない。また、名都借跨線橋の昇り下り部分は1車線交互通行であり、大型緊急車両等は、松戸市の根木内交差点より旧水戸街道経由しなく、この地域は孤立状態である。この都市計画道路建設の緊

急性、必要性は非常に高く、具体的整備計画について問う。

答 都市計画道路3・4・10号線については、平成20年度に実施した測量成果をもとに鉄道との交差方法について、都市計画決定されている高架構造を基本にアーダーパスも視野に入れ、交差構造の選定作業を引き続き進めている。地元説明については来年の1月末に開催し、進捗状況の報告と地域の方々のご意見をいただきたいと考えている。これらを踏まえ、今年度中には鉄道との交差構造を選定したいと考えている。また、これに合わせ国道6号線、県道旧水戸街道の各施設管理者や交通管理者との交通処理等の具体的な協議及び



名都借跨線橋

事業費や財源の検討を行い、平成23年度から事業実施に向けた手続きに入っていきたいと考えている。なお、国道6号線から東小学校入口付近までの区間約200メートルについても、当事業の中で進める予定である。

「事業仕分け」について

改革21市民クラブ 酒井 睦夫

問 国でも地方自治体でも「事業仕分け」が始まっている。(36自治体で実施)そこで、本市でも導入を検討したのか。導入する場合、スケジュールはどうか。対象事業はどのようにして選定するのか。

答 本市でも本年度に行政評価の一環として、外部の有識者や行政改革審議会委員等を加えて事務事業の廃止、見直し等検討を行った。事務事業の廃止、見直し等の検討は、行政評価の結果をもとに、1次から3次の検討を通じて行ったが、3次検討は2次検討において外部の意見を取り入れ慎重に検討を行う必要があると考えている。

TX南流山駅ホーム混雑緩和について

流政会 中川 弘

問 開業以来順調に利用客数が伸びているつくばエクスプレスだが多くの流山市民が利用する南流山駅ホームは混雑する一方である。

車輦増備やダイヤの見直し等の混雑緩和策が実施される8輛編成化も着手しているが南流山駅は構造的な問題を抱えており混雑解消は期待

できず防災上の問題もある。当局としての現状認識と今後の対応について問う。

答 つくばエクスプレス南流山駅の1日当たりの平均乗車人員数は、全線20駅の中でも秋葉原、北千住について3番目の多さとなっている。ラッシュ時にはホームが大変混雑し、電車の発着が近い場合などは人の流れが停滞する状況がある。改札機やエスカレーターの数、コンコースやホームの広さ等規模が小さいことから、混雑の原因が駅施設そのものにもあり、輸送力の増強だけでは解消しないのではないかと考えるが、首都圏新都市鉄道の対策としては、輸送力を増強すること、全線的な改善効果を図ることに重点を置き、現時点では当駅施設の具体的な改修等の計画は立てていないことである。将来の8輛化を考慮したホームの延伸により、ホームに滞留する容量を増やすことが現実的な対応と考えることができる。当駅利用者の利便性向上と安全でより快適な環境を確保するために首都圏新都市鉄道に対し、駅施設の改善についても混雑緩和の実情を把握し、その対策を検討するよう、つくばエクスプレス沿線連絡協議会、都市連絡協議会の活動を含めて要望していく。

保育所行政について

民主みらい 森田 洋一

問 平成21年4月1日現在、公立保育所総定員数の125%まで受け入れても、待機児童は63名。課題整理と解決策はどうか。0歳から2歳までの待機児童の比率が高く、3歳児未満保育に特化した施設が必要ではないか。公立保育所は老朽化が進んでいるところもあり、将来的には民間委



建設中の保育園(流山9丁目)

託を視野に入れた施設運営が求められるのではないかと答 待機児童の課題解決については、今後の児童数の推移を想定した上で保育所の待機児童ゼロを目指すことを最優先課題と位置づけ、解決策となる保育所の緊急整備に取り組んでいる。平成21年度及び22年度の2か年で千葉県に設置された安心子ども基金を活用し、保育園の新設、増改築等で総定員数389人増の整備を進めており、23年4月1日には待機児童ゼロの実現を目指している。3歳児未満の保育については、今後は新設の保育園により受け入れを強化するとともに、必要に応じて既存の分園を3歳未満児に強化した施設へ移行すること

消火器の維持管理について

流政会 宮田 一成

問 最近古い消火器による爆発事故がマスコミ等で取り上げられている。過去の事例では軽症の方から、死亡者まで出している事が報告されている。流山市の事故例はあったのか。

また、啓発活動はどのように行っているのかを問う。答 老朽化した消火器による事故については、今年度の2件を含め全国各地で過去10年間に約10件の破裂事故等が報告されているが、現在まで流山市では、このような事故等は発生していない。消火器本体の耐用年数は8年とされており、これを目安に点検業者による点検整備を受け、必要に応じて新しい消火器と買い替えをすることになるが、その際は無償で古い消火器を引き取っていることである。古い消火器の廃棄方法については、一般ごみや産業廃棄物での処理はできないので、製造者が有料で引き取ることになっており、市内では、代理店の防災業者が1000円程度で引き取りを行っている。啓発活動としては、古い消火器の適切な取り扱いについて市

面は公立保育所民営化事業として位置づけ、計画的に進めていく予定であり、民間に移行する場合には保護者への説明機会を十分に設け、開園と開園が同時に行えるよう十分配慮したいと考えている。

本会議は、議会のホームページからインターネットでもご覧になれますので、ご利用ください。

<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/gikai/>